

公益財団法人浜松こども園の活動プログラム

1) 基本理念について

- ①早期発見、早期療育の理念を使命感をもって継承します。
- ②公益財団法人として、透明性を図り、公正中立を目指します。(中略) 障害のある方たちの発達支援、家族支援、余暇支援と学習保障の取組みを、誠意をもって行います。
- ③幼児から学童、成長期の子どもたちのよりよい療育を目指します。安定した成人期が迎えらることを目標に、自律訓練に力点を置きます。
- ④障がいのあるものもない者も皆が生き生きと希望をもって暮らせる社会、インクルージョン社会の実現にむけて、地域や行政と連携をします。

2) 各事業について

【児童発達支援事業 ももはな園】

●日課

ひよこ学級		めばえ学級		くるみ学級	
9:40	トイレトレーニング 着替え支援 所持品の始末	9:30	受入れ 着替え支援 排せつ支援	9:30	代表理事にあいさつ 受入れ 着替え
10:00	絵本の読み聞かせ 朝の会	10:00	絵本の読み聞かせ 朝の会	10:00	朝の会 ラジオ体操 療育(運動プログラム 机上学習)
10:30	療育(運動プログラム、 机上プログラム、音楽プ ログラム)	10:30	療育(運動プログラム、 机上プログラム、音楽プ ログラム)	12:00	給食準備 給食
11:50	排せつ、給食準備	11:50	排せつ、給食準備	12:40	給食終了 片付け 着替え 歯磨き
12:00	食事支援	12:00	食事支援	13:00	自由あそび 個別支援 SST
12:30	歯磨き支援 トイレトレーニング	12:40	給食終了 片付け 歯磨き 排せつ	13:30	くるみ学級終了 3クラス合流集団活動
13:30	3クラス合流集団活動	13:00	個別支援	14:30	おやつ
14:30	おやつ	13:30	3クラス合流集団活動	15:00	帰りの会
15:00	帰りの会	14:30	おやつ		
		15:00	帰りの会		

●各クラスの特徴

クラス	特徴・対象児
ひよこ学級	<ul style="list-style-type: none"> ・新入園児が園生活に慣れるために基礎的な身辺処理、日常生活動作をゆっくりと経験する ・集中して取り組めるプログラムを多く用意し、園の活動が楽しく送れるように支援する
めばえ学級	<ul style="list-style-type: none"> ・丁寧な個別支援による、身辺自立、日常生活動作獲得のためのトレーニングを行う ・小集団活動ができるようにトレーニングを行い、一人一人に特化した支援、プログラムを提供する
くるみ学級	<ul style="list-style-type: none"> ・身辺自立、日常生活動作がほぼ確立し、支援者の口頭指示を理解し、小集団行動ができる児を対象とする ・就学、併行通園を目標にしている子について、それぞれに必要な支援、プログラムを提供する。

【放課後等デイサービス トムソーヤの家 みなみ】

●日課（平日）

時間	内容
12：30～	特別支援学校、市内小中学校に迎えに出る
13：00～14：00	受入れ 着替え 生活支援
14：00～15：30	全体活動（運動課題 リズム活動等）個別活動（机上学習 制作活動等）
15：30～16：00	おやつ
16：00～16：30	全体活動（運動課題 リズム活動等）個別活動（机上学習 制作活動等）
16：30～17：00	帰りの準備 余暇支援（パズル・絵本等） 戸外活動 送りに出る
17：00～18：30	（希望者のみ）延長支援

●日課（土曜日）

時間	内容
9：00～	受入れ 生活支援
9：10～11：30	全体活動（運動課題 リズム活動等）個別活動（机上学習 制作活動等）
11：30～	帰りの準備 余暇支援（パズル・絵本等） 送りに出る

●各クラスの特徴

クラス	特徴・対象児
育成学級	小集団活動を通じて日常生活動作や社会性、集団ルールを支援し、家庭との連携を大事にともに支援していく。
低学年学級	感覚の鋭さを持つ子(感覚過敏の子)たちが安心して過ごせる環境を設定し、落ち着いて活動に取り組めるよう支援していく。
高学年学級	社会生活に適応できる基礎的な力を培うとともに、持続性や達成感を味わう課題を行う。体験を積んで興味の幅を広げていく。
生活学級	中高等部の利用児を対象に掃除等生活の基本を学ぶ。 生活技術に加え、それらを駆使し楽しめる能力を育てていく。
遊々あそび学級	トランプ、カルタ、すごろくなど様々なアナログゲームを通して、他者と一緒に楽しむ工夫をする。ルールを守り、待つことを知り、仲間とのやりとりを学ぶ。
運動プログラム	運動機能の向上に努め、全身のバランス感覚を培う。仲間を意識し、ルールを習得していく。 グラウンド走行や歩行など、その子にあった目標を定める。また。小グループでの球技を行う中で、コミュニケーション能力や協調性などを培う。
感覚遊び	リトミック、パネルシアター等でリズム感覚を養い、仲間とともに楽しい時間を共有する。
和太鼓練習	太鼓演奏で地域交流。「遠州波小僧」組曲を中心にイベント前中心に練習。

3) 5領域について

具体的にはつぎの5つの領域をすべて含めた支援プログラムに基づいた支援のが求められています。

5つの領域とは

①健康・生活 ②運動・感覚 ③認知・行動 ④言語・コミュニケーション ⑤人間関係・社会性 です。

4) 浜松こども園における総合的な支援について

浜松こども園ではこれまでも総合的な支援を行ってきました。当園ではこの5つの領域を4つの領域にまとめた個別支援プログラムのもと、総合的な支援を児童発達支援事業でも放課後等デイサービス事業でも行っています。

4つの領域とは

①の健康・生活(日常生活動作) ②運動・感覚 ③個別(認知・行動)はほぼそのままです

が④の言語コミュニケーションに⑤の要素である社会性を加えて、言語・コミュニケーション・社会性としました。

当園ではこのような療育支援を行うとともに、学校や児童が利用する児童相談支援事業所、そして併行して利用します保育所や児童発達支援事業所、放課後等デイサービス事業所、必要に応じ医療機関とも積極的に連携を図り、他機関、他職種で連携し、専門性を活かした様々な視点からアプローチをすることで子どもたちのきづきや発達を支援しています。

当園で過ごす時間は 1 日の中のわずかであり、大多数の時間を家庭で過ごします。その家庭での生活をはじめご家族の困りごとにも必要であればご家庭に訪問し、または事業所に来所いただき相談支援にも適宜応じています。(6でも再度触れます)

①健康・日常生活動作

【ねらい】

- ・健康状態の把握、維持改善
- ・生活のリズムや生活習慣の形成
- ・基本的な生活スキルの獲得

【具体的支援内容】

健康状態の把握	・健康な心と体を育て自ら健康で安全な生活を作り出すことを支援 ・健康状態の常なるチェックと必要な対応 ・意思表示が困難である子どもの障害の特性及び発達の家庭・特性等に配慮し、小さなサインから心身の異変に気付く、そのためのきめ細かな観察
健康の増進	・基本的な生活のリズムが身につくよう支援する ・健康な生活の基本となる食を営む力の育成に努めるとともに、楽しく食事ができる
基本的な生活スキルの獲得	・身の回りを清潔にし、食事、衣服の着脱、排せつ等の生活に必要な基本的技能を獲得できるよう支援する

②運動・感覚

【ねらい】

- ・姿勢と運動・動作の向上
- ・姿勢と運動・動作の補助的手段の活用
- ・保有する感覚の総合的な活用

【具体的支援内容】

姿勢と運動・動作の基本的技能の向上	日常生活に必要な動作の基本となる姿勢の保持や上肢・下肢の運動・動作の改善及び習得、関節の拘縮や変形の予防、筋力の維持強化を図る。
姿勢保持と運動・動作の補助的手段の活用	姿勢の保持や各種の運動・動作が困難な場合、姿勢保持装置など、様々な補助用具等の補助的手段を活用してこれらができるよう支援する
身体の移動能力の向上	自力で身体移動や歩行、歩行器や車いすによる移動など、日常生活に必要な移動能力の向上のための支援を行う
保有する感覚の活用	保有する視覚、聴覚、触覚等の感覚を十分に活用できるよう遊び等を通して支援する
感覚の補助及び代行手段の活用	保有する感覚器官を用いて状況を把握しやすくするよう眼鏡や補聴器等の各種の補助機器を活用できるよう支援する。
感覚の特性（感覚過敏・感覚鈍麻）への対応	感覚や認知の特性を踏まえ、感覚のかたよりに対する環境調整等の支援を行う。

③個別（認知・行動）

【ねらい】

- ・ 認知形成のの発達と行動の習得
- ・ 空間、時間、数等の概念形成の習得
- ・ 対象や外部環境の適切な認知と適切な行動の習得

【具体的支援内容】

感覚や認知の活用	感覚、聴覚、触覚等の感覚を十分活用して、必要な情報を収集して認知機能の発達を促す支援を行う
知覚から行動への認知過程の発達	環境から情報を取得し、そこから必要なメッセージを選択し、行動につなげるという一連の認知過程の発達を支援する
認知や行動の手がかりとなる概念の形成	物の機能や属性、形、色、音が変化する様子、空間・時間等の概念の形成をはかることによって、それを認知や行動の手がかりとして活用できるよう支援する
数量、大小、色等の習得	数量、形の大きさ、重さ、色の濃い等の習得のための支援を行う

認知の偏りへの対応	認知の特性を踏まえ、自分に入ってくる情報を適切に処理できるよう支援し、認知の偏り等の個々の特性に配慮する。こだわりや偏食等に対する支援を行う。
行動障害への予防及び対応	感覚や認知の偏り、コミュニケーションの困難性から生ずる行動障害の予防、及び適切行動への対応の支援を行う。

④言語・コミュニケーション・社会性

【ねらい】

- ・言語の形成と活用
- ・言語の受容及び表出
- ・他者との関わりの形成
- ・コミュニケーションの基礎的能力の獲得と向上
- ・コミュニケーション手段の選択と活用
- ・自己の理解と行動の調整
- ・仲間づくりと集団への参加

【具体的支援内容】

言語の形成と活用	具体的な事物や体験と言葉の意味を結び付ける等により、体型的な言語の習得、自発的な発声を促す支援を行う
受容言語と表出言語の支援	話し言葉や各種の文字・記号等を用いて、相手の意図を理解したり自分の考えを伝えたりするなど、言語を受容し表出する支援を行う
人との相互作用によるコミュニケーション能力の獲得	個々に配慮された場面における人との相互作用を通して、協働優位の獲得等を含めたコミュニケーション能力の向上のための支援を行う
指さし、身振り、サイン等の活用	指さし、身振り、サイン等を用いて、環境の理解と意思の伝達ができるよう支援する
読み書き能力の向上のための支援	障害特性に応じた読み書き能力の向上のための支援を行う
模倣行動の支援	遊び等を通じて人の動きを模倣することにより社会性や対人関係の芽生えを支援する
感覚運動遊びから象徴遊びへの支援	感覚機能を使った遊びや運動機能を働かせる遊びから見立て遊びやつもり遊び、ごっこ遊び等の象徴遊びを通して、徐々に社会性の発達を支援する

一人遊びから協同遊びへの支援	周囲に子どもがいても無関心である一人遊びの状態から並行遊びを行う、大人が介入して行う連合的な遊び、役割分担したりルールを守って遊ぶ協同遊びを通して、徐々に社会性の発達を支援する。
自己の理解とコントロールのための支援	大人を介在して自分のできること、できないことなど、自分の行動の特徴を理解するとともに、気持ちや情動の調整ができるように支援する
集団への参加への支援	集団に参加するための手順やルールを理解し、遊びや集団活動に参加できるよう支援する

●1つの活動プログラム=1領域の学びではありません。例えば散歩であれば、

・子どもが自然に目を向けられるような声掛けや子どもの表情を見ながらさまざまな言葉かけを行います。そこから季節を感じ、人や環境とのふれあいができます。これは下でいう③④にあてはまるでしょう。

・子どもが花や草など実際に触れられるものには触れて感触やにおいなども感じられるように配慮を十分にいます。季節を感じ環境とのふれあいと同時に、五感の刺激にもなります。これは下でいう②③にあてはまるでしょう。

・子どもの年齢、体力、環境、交通ルール等を十分に考慮し、無理のない場所・行程にします。ここから地域の人とのふれあい、体力をつけたり風・太陽を浴びたりすることで生活リズムが整えられます。これは①②④にあてはまるでしょう。

①健康・生活（日常生活動作） ②運動・感覚 ③個別（認知・行動） ④言語コミュニケーション 社会性

このように1つの活動プログラムでも発達支援の5領域すべてにあてはまるものもあります。しかし個々によってはこの活動においてこの領域の発達支援のために行うということもあります。それを示すのが個別支援計画です。当園の5領域に対応した個別支援計画は7で触れます。

5) インクルージョンの推進について

該当する児童においては、保育所等への支援を行いながら併行通園や保育所等への移行を推進するなど、インクルージョンの取組を推進します。希望者だけとなるものの地域のイベントへの参画、中学生以上は浜松こども園が主催するわいわい青年学級への入校をすすめ、個別支援計画の中にも盛り込みます。

6) 本人（発達）支援の他の支援について

- ・家族支援
- ・地域支援

